

# 藤井康一



麻布大学獣医学部卒業後、2年の勤務医を経て、ペンシルベニア大学獣医学部に3年間留学。1997年から横浜市・妙蓮寺の「藤井動物病院」の2代目院長として地域の動物医療に携わる。金沢大学で講師も務める。獣医麻酔外科学会理事、公益社団法人日本動物病院福祉協会東日本代表ディレクター

## 獣医さんの 診察室から

vol.96

日夜動物たちが訪れる診察室から、  
飼い主さんへのメッセージをお届けします。

ダイエット成功の鍵は  
食事の量ではなくカロリー

日々の健康管理指導に熱心な藤井先生。とくに食事管理による健康づくりに力を入れています。

「近ごろのフードは、味、犬種別、ライフステージ別と種類が増え、愛犬により合ったものを選べるようになりました。飼い主さんに指導することが多いのは、与えすぎによる「肥満」です。肥満は内臓疾患にもつながり、食事制限や療法食に切り替え

る必要が出てくるので早期に改善したいもの。犬の場合、運動で体重を減らすには限界があるため、確実に体重を減らすダイエット法としては、食事の調整方法を指導しています」  
具体的にはどのように食事を調整すればいいのでしょうか。

「飼い主さんからはよく『何B与えるようにすればいいの?』と聞かれますが、ダイエットで大事なものはカロリーです。1日に必要なカロリーはライフステージや体重によって異なり、たとえば、体重(kg)×0.75×係数(離乳期は2.74、成長中期は2.00、成犬期は1.32)で簡単に算出できます。またフードのパッケージに与える食事量の目安が記載されていることも多いので、確認してみてください。現在の食事量が必要量より多かつたら減らす必要があります。ただし、急激に食事量を減らすと、犬がストレスを感じます。最初の1カ月は今までの1割だけ減らしてみましよう。順調に体重が減っていけばそのまま続け、変化が見られなければ、次の1カ月でさらに1割減らすといいでしょう」

おやつワクワク感が  
免疫力アップにつながります

肥満予防のためには、おやつも控えたほうがよいのでしょうか。

「おやつを与えすぎると肥満の原因になるのは事実です。しかし、おやつをもらえるワクワク感が免疫細胞を刺激し、免疫力アップにつながるというわけがあります。また、おやつはしつけのごほうびに使うと、コミュニケーションツールとして役立ち



写真は看板犬・大将くん。ワイマラナーとゴールデン・レトリバーのミックス。病院には訳あって引き取った犬猫が6頭います

ます。間食としておやつを毎日必ず与えるというのではなく、ときどき与える程度であれば、問題ありません」

最近ではフードの選択肢が多く悩んでしまう、という声もあります。

「まずはシンプルに、1日に必要なカロリーと体重を計算してその量を守り、体重もしっかりチェックすることから始めてください。コンクールコンディション、人間でいえば、モデル体形を目指す必要はありません。標準を維持するという、気負わない姿勢が一番です」



待ち時間が楽しくなるデザインの違いアンティークのイスを用意するなど、気軽に来院できる雰囲気こだわった待合室



獣医師の診察・処方がないと購入できない療法食も充実。症状が重い場合は治療の一貫として療法食をすすめています

「食」は愛犬の健康の源。  
食の楽しみを維持させ  
つつ、適切なカロリー  
コントロールで  
病気予防をしましょう

### 藤井先生からのアドバイス

#### 愛犬の健康管理のために まずは日々の観察を大切に

愛犬の健康管理のためにはふだんから観察し、触れて、よく見ることが大切。よく「食欲がない」と相談されることがありますが、成長期の終わりや暑くなるころなど、時期が影響していることもあります。食欲がなくても元気に動けていれば問題ありません。フードが好みの味でないこともあるので、ふだんから観察して好みを把握してください。

また、歯みがきひとつで寿命が延びるともいわれており、食事後の歯みがきも重要。病気を治療するより、病気にさせない「予防」をがんばるほうが、飼い主さんにも愛犬にも負担がかかりません。気になることは気軽に獣医さんに相談してみてください。